ティーチングポートフォリオ

健康科学大学 看護学部 看護学科

助教 馬淵路子

1. 教育の責務

近年、看護系大学は増加し、令和3年度には303校となっている。これは、日本における少子高齢化や医療の高度化・複雑化などの背景により、質の高い優れた看護職の育成が求められているためである。知識や技術の習得はもとより、思考力や判断力を養うことや、豊かな人間性の育成が求められる。学生が、大学での学びを社会に活かし、自分らしくよりよく生きられるような教育を行う使命がある。

私は本学に勤務して5年目となり、在宅・公衆衛生看護領域に所属している。昨年より助教となったため教育経験は少ないが、17年間の看護師と保健師の臨床経験を活かした教育を行っていきたいと考えている。

* 分担科目として担当している科目

- ・スターアッププログラムⅠ
- ・看護体験演習
- ・老年看護援助論Ⅱ
- ・在宅看護援助論Ⅱ
- ・看護総合実習
- ・在宅看護学実習Ⅰ
- ・在宅看護学実習Ⅱ

* 授業以外の活動

- 1) 国試対策委員
- 2) 学生募集委員
- 3) 牧野フライス技研株式会社 富士吉田工場 産業保健師

特に3)の活動は、企業の保健師として産業医とともに、従業員が安全に働ける環境づくりを役割としている。具体的には、健康相談や健康診断後の面接、職場巡視などを実施している。これらは、産業の場の保健師の役割について公衆衛生看護学に活かすことができると考える。

2. 教育の理念

本学の精神・基本理念は「豊かな人間力」「専門的な知識・技術」「開かれた共創力」であり、これら3つを兼ね備えた人材を育成することを使命としている。

看護師国家試験合格に向けて、幅広い知識や思考力を習得することが重要であるが、専門職として生涯活躍できるような人材の育成が必要である。習得した知識や技術を実践の場で活用するための思考力や判断力を身につけ、社会に役立てていけるような力を養成する必要がある。看護は対象が人であるため、人に関心を持ち、多角的な視点から対象者を理解しようとする姿勢を持てるようにする必要がある。また、学生が社会の中で自分らしく生きられるような人間性の構築も必要である。

さらに、向上心をもって主体的に取り組む学生の養成が必要である。看護は専門職であるため、生涯学び続けることが求められる。日々進歩している医療に関心を持ち、積極的に学ぶ意欲を維持できるよう関わることを目指す。

本学部は地域との交流も行われているため、地域にも関心を向けてほしいと考える。その地域の特徴や住民同士のつながりが、住民の暮らしや健康にどのように影響を及ぼしているか考え、その人らしく生きるための支援や看護職の役割について考えられる力を養成したい。

3. 教育の方法

主に担当している講義は、主に認知症看護と在宅看護の中の外来看護である。

地域包括ケアやヘルスプロモーションの推進等により、在宅看護が重要視されている。その一つである外来看護は、これまでの臨床経験から事例や体験をもとに、演習やグループワークを取り入れて興味が持てるような工夫を行っている。外来看護も含めた在宅看護について、ケアだけでなく生活や予防の視点も捉えられるような広い視野で看護を考えられるように工夫していく。

認知症看護では、認知症の知識やケアについて、学生が認知症看護に興味を持てるような内容を伝える。認知症看護は難しいと捉えがちであるため、病態の正しい理解や認知症の人の気持ちを考えること、家族への支援等、学生の反応を見ながら授業を展開していく。また、認知症の人の内面的な世界を捉え、尊厳を維持できる看護を考えることや、ケアの基盤となる倫理的な問題を中心

に、認知症の人がその人らしく生きられるためのケアについて考え実践できることを目指していく。授業では、対話を用いたり、グループワークや演習を取り入れたりしながら、思考力や想像力がつき、理解が深まるよう実施していく。また、レポートなど課題を提示し、振り返りができるようにしていく。IT化が進み、授業にも取り入れているが、書くことが学修の習得になるため、Teamsなども上手く活用しながら、直筆でのレポートや課題学習、配布資料の工夫をする。

4. 教育の成果・評価

講義後のリアクションペーパーや授業評価、科目試験の到達状況を基に振り返りと反省を行い、次回に活かしている。また、講義中の学生の反応や態度から講義内容の工夫を行った。事前課題や授業後のレポートなど講義の前後も含めて学びが深まるような工夫が必要だと感じている。

5. 教育目標

短期目標：講義後のリアクションペーパーや授業評価を確認し振り返りをしながら、学生が意欲的かつ主体的に学べる工夫を日々行っていく。

長期目標：看護観を確立し看護専門職者としてキャリアデザインができるような学生の育成を目指す。学生のうちから今後のキャリアを思い描き、目標を明確にすることで、充実した大学生活を過ごすことができ、看護職者として学び続けることが、看護の質向上につながる。